

(別記)

令和5年度涌谷地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

涌谷町は大崎平野の東に位置し、南を江合川、北を迫川、東を北上川に囲まれ、水量豊富で水利に富み、中央部は笥岳山と加護坊山を結ぶ丘陵が東から西方向にのび、その南側及び北側に耕地が広がっている。古くから「ササニシキ」や「ひとめぼれ」に代表される良質米の主産地であり、水稻を基幹作物としながら繁殖牛・小ねぎ・ほうれん草等の優良農畜産物を産する県内でも有数の町で、国の食糧供給地域として重要な役割を果たしてきた。

現在、町内では3つの地区で大区画ほ場整備事業を実施しており、今後更に水田をフルに活用した土地利用型農業・高収益作物の生産性向上等を進めていく必要がある。

一方、農業者の高齢化が進んでおり、今後更に高齢化が進むことで、農業従事者、農家戸数も年々減少していくものと見込まれるため集落営農、法人、認定農業者等への集積・集約化の推進が必要である。

主食用米の生産については、良質米の産地として需要に応じた数量確保に努めており、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症による主食用米の過剰在庫を解消するため、令和4年産と同水準の生産量とし、非主食用米などの作物に転換することで、農業者所得の確保を図っていく。

麦については、ロシアのウクライナ侵攻の長期化により、小麦の輸入量に不透明感があることから、実需者が国内産にシフトしており、数量確保のため、団地化や新技術導入の支援によりコスト削減や、単収向上に取り組んでいく。

大豆については当地域内で需要もあり、需要量を満たすための生産拡大を推進する必要がある。

飼料作物については、飼料高騰も長期化していることから、飼料自給率を図るうえで、青刈りとうもろこしや子実用とうもろこしの取組を増加させていく。

新規需要米については、飼料用米・加工用米の生産により対応する計画であり、WCS用稲については、畜産農家や実需者の需要量に応じた生産を行うことが必要である。

以上を踏まえ、水田をフルに活用し主食用米はもとより、麦・大豆の産地化をはじめ、加工用米や飼料用米の推進、また露地野菜等の土地利用型園芸や施設園芸の生産拡大を図るとともに担い手等への農地集積・集約化により当地域の安定かつ特色ある水田農業の確立に向け推進していく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

涌谷地域は平成に入ってから水稲+小ねぎ・ほうれん草を軸に複合経営を推進してきたが、当初始めた農業者の高齢化・後継者問題等で減少傾向にあるが、複合経営から施設野菜の単一経営で規模拡大し、法人化も進んできている。

水田収益力強化ビジョンで推進している長ねぎ・青ねぎは、以前は市場向けが多数を占めていたが、特に青ねぎは調整段階で廃棄する部分も多かったため、収量が伸び悩み、それに伴い生産戸数も増えなかった。しかし、実需からの要望も増え、加工することで廃棄する部分も減ることから収量の増加が見込まれるため、生産体制の整備を国や県の補助事業を活用し規模拡大につなげ、収益を確保する。

現在ほ場整備事業が実施・計画されている地区（出来川左岸上流地区・下流地区）において、長ねぎ・青ねぎ・たまねぎ・子実用とうもろこしを水田農業高収益化推進計画に定め、水稲・麦・大豆・子実用とうもろこし・露地野菜を含めたブロックローテーションを行い、転作後の圃場は土壌診断を実施した上で、業務用米や飼料用米を低コストで生産できるよう推進していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を導入した営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促すため、水田における畑作物の導入と品質向上・収量増を可能とする水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化を推進する必要がある。

涌谷地域は現在3地区のほ場整備事業（鹿飼沼地区・出来川左岸上流地区・出来川左岸下流地区）があり、特に西地区は小ねぎ・ほうれん草・みず菜・長ねぎ・青ねぎの生産が盛んなことから、ほ場整備事業の進捗に合わせ、長ねぎ・青ねぎ・たまねぎの露地野菜を計画しており、国・県の補助事業等の導入も検討しながら畑地化の推進を図る。

また、水田の利用状況を点検した結果、畑作物の作付けが固定されている水田が約98haあったことから、令和8年度までに畑地化支援を活用しつつ、畑地化を促していくことと、連作障害における減収を回避するため、水稲を組み入れたブロックローテーションの更なる推進を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

米の需要を見極めつつ、食の安全性が重要視される状況になっているため、生産履歴記帳の定着化を推進し、本町作物の安全性をアピールしていく。

市場評価の高い「売れる米」を生産するために、転作ブロックローテーションを推進し、転作後地の高タンパク米回避のため業務用米「まなむすめ」「萌えみのり」の作付けを普及する。

また、実需者から要望される米を確保していくために、常温除湿乾燥で自然乾燥米に近いカントリーエレベーター米や特別栽培米等のこだわり米を推進していくとともに、こだわり米として低タンパクな「ササニシキ」や良食味「ひとめぼれ」など主力とし、健康志向の「金のいぶき」を推進していく。

作期の分散により低温等からの危険分散を図り、高品質な米の栽培を目指す晩期栽培の取組を拡大していく。

水稲栽培の低コスト化を図るために、担い手への土地利用集積や乾田直播栽培、機械の共同利

用、無人ヘリ・ドローンによる共同防除等を推進していく。

(2) 備蓄米

国から配分される県別優先枠の作付けは、需給調整の手段として安定的に活用できることから、継続的に維持・確保していく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた麦・大豆、備蓄米の作付けを最大限に行った上で水田フル活用の基幹作物として、団地化や直播栽培等による低コスト化を図り、実需者の需要量に応えるため、主食用品種から専用品種に切り替え反収の増加を図っていく。令和4年産米は米価が回復傾向にはあるものの、新型コロナウイルス感染症発生以前には戻っておらず、引き続き同面積程度として取り組む。

イ 米粉用米

米粉用米については、ロシアのウクライナ侵攻による小麦の不透明感から米粉用麺・パンなどにシフトする様相となっていることから、実需者の動向を踏まえ、取組を検討する。

ウ 新市場開拓用米

国内の主食用米需要が低迷する中、高品質な国産米を生産することで、米価維持を図る観点から生産拡大について検討する。

エ WCS用稲

WCS用稲については、飼料高騰が長期化していることから、畜産農家の生産戸数を増加させ、団地化や集積により低コスト化等を図りながら畜産農家との連携を推進する。

オ 加工用米

加工用米については、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物であることから、販売先の確保、また担い手に集積することでコスト縮減を図るため、生産拡大について検討する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

小麦については、実需者と播種前契約を結ぶことから、実需者ニーズを満たす数量を生産するとともに、実需者が求める加工のし易さ、また、高タンパク質の麦を生産するため、定着化した夏黄金の生産拡大を進めながら、栽培管理、安全と安心のための栽培履歴の記帳を徹底していく。

単年毎のブロックローテーションによる固定団地で取り組んでおり、今後とも団地化等により生産コストの低減を推進していく。後作に大豆を播種する二毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大を図り、適期播種による高品質な小麦の生産と作付面積に応じた採種圃を設定していく。

大麦については、大豆二毛作体系の普及に向けて実需者要望を検証しつつ、令和6年産の作付目標に向け取り組む。

イ 大豆

大豆については、実需者と播種前契約を基本にニーズを満たす数量を生産するとともに、栽培暦に基づいた高品質栽培管理や栽培履歴記帳の徹底を図る。

団地化により生産コストの削減を図り、1年1作による適期播種の推進とあわせ麦後作の二

毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大、適期播種による高品質な大豆の生産と 300A 技術等の取組を推進し、安全安心で高品質・高単収の大豆を生産していく。

また、ミヤギシロメでの「まちの豆腐屋プロジェクト」による 6 次産業化の普及・定着を図るため生産拡大を推進する。

ウ 飼料作物

飼料作物については、農用地の有効活用による良質粗飼料の生産を基本に地域内粗飼料自給率の向上を図るため、産地交付金を活用し団地化による作業集積や二毛作を推進するとともに、汎用型飼料収穫機の使用により良質のホールクロップサイレージやデントコーンサイレージの生産を推進していく。また、飼料価格が高止まりの様相があることから、子実用とうもろこしを導入し、生産者のみならず畜産農家の経営コスト縮減を図る。

(5) そば、なたね
取組なし

(6) 地力増進作物
取組なし

(7) 高収益作物

収益性の高い農業を目指し、水田を活用した加工・業務用野菜など土地利用型園芸を推進するとともに、施設園芸の規模拡大等及び露地野菜への取組を支援し、農家所得の向上を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位: ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1,489.23		1,566.00		1,566.00	
備蓄米	19.27		19.27		19.27	
飼料用米	364.31		331.90		331.90	
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲	29.57		22.51		22.51	
加工用米						
麦	160.35		140.80		140.80	
大豆	409.44	77.50	385.21	86.16	385.21	86.16
飼料作物	211.42	22.85	223.16	55.00	223.16	55.00
	・子実用とうもろこし	38.52	50.00		50.00	
	・青刈りとうもろこし	33.11	33.16	20.00	33.16	20.00
	・その他	139.79	140.00	35.00	140.00	35.00
そば						
なたね						
地力増進作物	0.26		0.26		0.26	
高収益作物	12.84		30.00		30.00	
	・野菜	12.84	30.00		30.00	
	たまねぎ	0.65	7.00		7.00	
	トマト	0.98	2.00		2.00	
	にんじん	0.19	1.00		1.00	
	長ねぎ	4.52	5.00		5.00	
	ブロッコリー	0.35	3.00		3.00	
	青ねぎ	3.52	6.00		6.00	
	未成熟そらまめ	2.63	6.00		6.00	
	・花き・花木					
	・果樹					
	・その他高収益作物					
その他						
	・〇〇					
畑地化			10.00		10.00	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦（基幹作物）	団地加算助成（麦）	300a以上の 連坦団地化 10a当たり労働時間	（令和4年度） 132ha （令和4年度） 3.5h/10a	（令和5年度） 175ha （令和5年度） 2.6h/10a
2	大豆（基幹作物）	団地加算助成（大豆）	300a以上の連坦団地化 10a当たり労働時間	（令和4年度） 272.1ha （令和4年度） 3.9h/10a	（令和5年度） 330ha （令和5年度） 2.9h/10a
3	飼料作物（基幹作物）	団地加算助成（飼料作物）	飼料作物団地化面積 10aあたりの労働時間 青刈りとうもろこし 子実用とうもろこし その他飼料作物	（令和4年度） 150ha （令和4年度） 3.4h/10a 2.6h/10a 4.8h/10a	（令和5年度） 230ha （令和5年度） 3.3h/10a 2.2h/10a 4.3h/10a
4	大豆（ミナソノメ） （基幹作物・二毛作）	地域特産品加算（大豆）	生産面積 10aあたりの収量	（令和4年度） 80.5ha （令和4年度） 143kg/10a	（令和5年度） 150ha （令和5年度） 210kg/10a
5	飼料作物 （青刈りとうもろこし） （基幹作物・二毛作）	青刈りとうもろこし 加算（飼料作物）	作付面積 飼料作物全面積における青刈りとうも ろこしの取組割合 10aあたり労働時間	（令和4年度） 33.1ha （令和4年度） 17.5% 3.4h/10a	（令和5年度） 42ha （令和5年度） 23% 3.3h/10a
6	大豆・飼料作物（二毛作）	大豆・飼料作物 二毛作助成（二毛作）	二毛作取組面積 戦略作物（基幹作物）及び野菜 作付面積の内二毛作に取り組ん でいる割合	（令和4年度） 99.6ha （令和4年度） 14.2%	（令和5年度） 195ha （令和5年度） 32%
7	飼料用米生産ほ場の稲わら （基幹作物）	稲わら利用助成 （耕畜連携）	飼料用米生産面積 うち稲わら利用取組面積 （割合）	（令和4年度） 364.3ha （令和4年度） 202.6ha (55.6%)	（令和5年度） 366ha （令和5年度） 310ha (85%)
8	たまねぎ、長ねぎ、にんじん、 未成熟そらまめ、青ねぎ、ブ ロッコリー、トマト、子実用と うもろこし（基幹作物）	地域振興作物助成	地域振興作物 の作付面積 子実用とうもろこし 10aあたりの収量	（令和4年度） 51.1ha （令和4年度） 220kg/10a	（令和5年度） 90ha （令和5年度） 700kg/10a
9	麦・大豆（基幹作物）	土づくり助成	麦大豆全作付面積のうち 堆肥を施用した面積（割 合）	（令和4年度） 572ha のうち 72.1ha (12.6%)	（令和5年度） 600haのうち 300ha (50%)

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:宮城県

協議会名:涌谷地域農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	団地加算助成(麦)	1	8,000	麦(基幹作物)	300a以上の団地化
2	団地加算助成(大豆)	1	8,000	大豆(基幹作物)	300a以上の団地化
3	団地加算助成(飼料作物)	1	5,000	飼料作物(基幹作物)青刈りとうもろこし、子実用とうもろこし、イタリアンライグラス、リードカナリーグラス、ソルゴー、青刈りヒエ、オーチャードグラス、チモシー、スーダングラス、ライムギ、エン麦	80a以上の団地化
4	地域特産品加算(大豆)	1	4,000	大豆(ミヤギシロメ)(基幹作)	大豆300A技術を導入し、ミヤギシロメを生産する
4	地域特産品加算(大豆)(二毛作)	2	4,000	大豆(ミヤギシロメ)(二毛作)	大豆300A技術を導入し、ミヤギシロメを生産する
5	青刈りとうもろこし加算(飼料作物)	1	5,000	飼料作物(青刈りとうもろこし)(基幹作)	青刈りとうもろこしを生産
5	青刈りとうもろこし加算(飼料作物・二毛作)	2	5,000	飼料作物(青刈りとうもろこし)(二毛作)	対象作物を戦略作物同士の組み合わせにより生産する
6	大豆・飼料作物二毛作助成(二毛作)	2	15,000	大豆・飼料作物(イタリアンライグラス・スーダングラス、リードカナリーグラス、エン麦、青刈りとうもろこし、オーチャード、チモシー、ソルゴー、ライ麦)(二毛作)	対象作物を戦略作物同士の組み合わせにより生産する
7	稲わら利用助成(耕畜連携)	3	10,000	飼料用米生産ほ場の稲わら(基幹作物)	堆肥を施用した飼料用米圃場の稲わらを畜産農家に供給する。
8	地域振興作物助成	1	20,000	たまねぎ、長ねぎ、にんじん、そらまめ、青ねぎ、ブロッコリー、トマト、子実用とうもろこし(基幹作物)	出荷・販売目的に対象作物を生産する。
9	土づくり助成	1	5,000	麦・大豆(基幹作物)	堆肥を施用し、出荷・販売目的に生産する麦・大豆 ※団地加算との重複は出来ない